

米国臨床薬学研修の効果に関する検討

○戸張 裕子¹, 中島 由紀¹, 杉浦 宗敏¹, 林 良雄¹, 野水 基義¹, 笹津 備規¹
(¹東京薬大薬)

【目的】国際的な視野を兼ね備えた薬剤師の育成に向けた教育プログラムの充実に資することを目的に、本学が実施している米国臨床薬学研修の効果について評価した。

【方法】2013 年度に南カリフォルニア大学(USC)ならびにカリフォルニア大学サンフランシスコ校薬学部(UCSF)にて研修を行った薬学部5年生(それぞれ14人、20人)を対象に、研修前後に自記式質問票を用いた調査を行った。

【結果】対象者の参加目的は多様であったが、「研修が自身の目的達成に役に立った」との評定には、両群共に10点満点中平均約8点をつけ、有用と評価した。対象者のほぼ全員が、研修により視野が広がる等の理由から米国臨床研修を後輩に勧めたいと回答した(USC群100%, UCSF群90%)。USC群では、「英語が好き」「外国人とは違和感を感じることなく気軽に接することができる」との英語コミュニケーションに関するスコア(10点満点)が、研修後に有意に増加した。UCSF群では、「研修先の学生から学問的な面で刺激を受けた」との国際交流に関するスコアが、研修後に有意に増加し、「英語の運用能力は将来自分のキャリアに必要なものになると思う」との職能開発に関連するスコアについては、USC群と比較して高い傾向にあった。両群ともにほぼ全員が留学を希望していたが、その目的はUSC群の約7割が語学力向上、UCSF群の4割が専門分野での研究と回答しており、両群間で異なる傾向にあった。海外での就職を考えたことがある学生の割合は、USC群では研修前と比較して研修後に増加したが(43%から64%)、UCSF群では低下する傾向にあった(80%から55%)。**【考察】**本学における米国臨床薬学研修は、UCSF・USCそれぞれの大学の特色を生かしたプログラムを提供しており、参加学生の意識に与える影響も異なるものと示唆された。今後も研修効果の関連要因について検討し、当該研修の更なる充実を図りたいと考えている。